

Title	セルトリ細胞腫Sclerosing typeの1例
Author(s)	下村, 達也; 清田, 浩; 加藤, 伸樹; 阿部, 和弘; 長谷川, 太郎; 湯本, 隆文; 伊藤, 博之; 山田, 裕紀; 大石, 幸彦; 鈴木, 正章; 清川, 貴子
Citation	泌尿器科紀要 (2001), 47(4): 293-295
Issue Date	2001-04
URL	http://hdl.handle.net/2433/114495
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

セルトリ細胞腫 Sclerosing type の 1 例

東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室 (主任 : 大石幸彦教授)

下村 達也, 清田 浩, 加藤 伸樹

阿部 和弘, 長谷川太郎, 湯本 隆文

伊藤 博之, 山田 裕紀, 大石 幸彦

東京慈恵会医科大学病院病理部 (主任 : 河上牧夫教授)

鈴木 正章, 清川 貴子

SCLEROSING SERTOLI CELL TUMOR OF THE TESTIS :
A CASE REPORTTatsuya SHIMOMURA, Hiroshi KIYOTA, Nobuki KATO,
Kazuhiro ABE, Taro HASEGAWA, Takahumi YUMOTO,
Hiroyuki ITO, Hiroki YAMADA and Yukihiko OISHI*From the Department of Urology, Jikei University*Masahumi SUZUKI and Takako KRYOKAWA
From the Department of Pathology, Jikei University

We report here a case of sclerosing Sertoli cell tumor of the testis. A 21-year-old male, who complained of right testicular pain, visited a Jikei University affiliated hospital on May 30th, 1999. A small nodule with a diameter of 6 to 7 mm was palpable on the central surface of the right testis. No tumor markers for testicular cancer, such as hCG-beta and alfa-fetoprotein, were elevated. However, ultrasound revealed a hypoechoic mass with increased blood flow. Therefore, we performed right high orchiectomy under the diagnosis of right testicular cancer. Pathological diagnosis of this tumor was sclerosing Sertoli cell tumor. Neither recurrence nor metastasis has been found for 12 months postoperatively.

(Acta Urol. Jpn. 47 : 293-295, 2001)

Key words: Sertoli cell tumor, Sclerosing type, Testicular tumor

緒 言

精巣腫瘍の中でセルトリ細胞腫は稀な腫瘍である。本邦では過去に18例の報告があるにすぎない。今回、われわれは、セルトリ細胞腫の1例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告する。

症 例

患者 : 21歳, 男性

主訴 : 右陰嚢内痛

既往歴 家族歴 : 特記すべきことなし

現病歴 : 1999年5月30日より右陰嚢部痛が出現したため、同日、当科を受診した。

初診時現症 : 身長 174 cm, 体重 65 kg, 血圧 124/82 mmHg, 脈拍64/分・整, 体温 36.2°C. 女性化乳房なく腹部に異常所見を認めなかった。また、腋毛、陰毛は男性型で、表在リンパ節は触知しなかった。左精巣は正常であったが、右精巣中央に精巣上体から離れて直径6~7 mm 大の弾性硬 表面平滑な腫瘍を触

知した。右精巣上体および精管は正常であった。

諸検査成績 : 血液生化学検査では c-reactive protein (CRP) 0.5 mg/dl と軽度上昇を認めた以外、異常所見なし。検尿は正常で、尿培養は陰性であった。精巣腫瘍の腫瘍マーカーでは、human chorionic gonadotropin (HCG) 0.4 mIU/ml 以下、beta-human chorionic gonadotropin (hCG-β) 0.1 ng/ml 以下、alpha fetoprotein (AFP) 2 ng/ml であり、いずれも正常範囲内であった。また、エストロゲン値 (エストラジオール) は 33.8 pg/ml, フリーテストステロン値は、21.9 pg/ml であり、共に正常範囲内であった。

画像所見 : 胸部単純X線で異常なし。精巣超音波検査では、右精巣中央部に外方に突出する直径 11 mm の辺縁やや不明瞭な低エコーの腫瘍を認め (Fig. 1), Color Doppler Echo でこの腫瘍内に血流を認めた。腹部 CT では後腹膜リンパ節の腫大を認めなかった。

治療経過 : 右精巣腫瘍を疑い、同年6月25日、腰椎麻酔下に右高位精巣摘除術を施行した。

肉眼所見 : 右精巣中央部の白膜下に 10×8×8 mm

の黄色・充実性の腫瘤を認めた。腫瘤断面は均一で、出血・壊死巣を認めなかった。

病理組織学的所見：腫瘤の組織像は、HE 染色で、線維組織を主体とする構築の中に一部索状構造をとる上皮成分があり、核の腫大や、核分裂像は認めなかつ



Fig. 1. Ultrasound finding of the right testis: a hypoechoic mass with diameter of 11 mm was revealed on the central surface of the right testis (arrows).

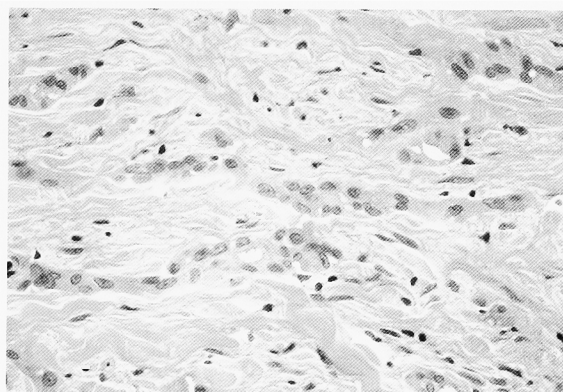


Fig. 2. Microscopic finding of the right testicular tumor (HE stain, $\times 100$): among the fibrous structure, stromal epithelial element was partially recognized.

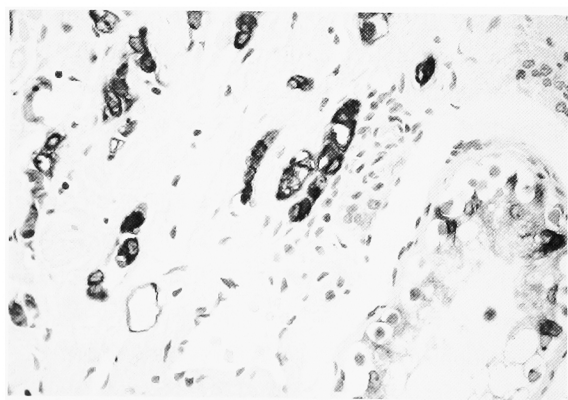


Fig. 3. Immunostain using anti-cytokeratin antibody CAM 5.2: positive finding was recognized in stromal epithelial structure.

た (Fig. 2). 抗サイトケラチン抗体 CAM 5.2 染色では、索状構像を呈する上皮細胞は陽性を示し (Fig. 3), epithelial membrane antigen (EMA) は陰性、Vimentin は、明らかな陽性所見は得られなかった。

以上より、病理組織学的に本腫瘍をセルトリ細胞腫 sclerosing type と診断した。

後療法は施行せず、術後12カ月を経た現在、再発、転移なく外来で経過観察中である。

考 察

セルトリ細胞腫は比較的稀な疾患であり、Richie¹⁾によると全精巣腫瘍の1%以下とされている。本邦では1999年に湯浅ら²⁾が過去の18例を集計後に報告はない。セルトリ細胞腫は従来組織学的形態により general type と large cell calcifying type の2型に分類されていたが³⁾、1991年 Zukerberg ら⁴⁾が新たに sclerosing type を提唱して以来、世界的にはこれらの3亜型に分類される。本邦では現在までにセルトリ細胞腫をこの3亜型にわけ報告されたことがなく、本症例が本邦では初めてのセルトリ細胞腫 sclerosing type の報告例である。本症例は、線維成分を主体とした間質の中に上皮細胞が索状や1部管腔様構造を呈していることより sclerosing type と診断した。Anderson⁵⁾は、サイトケラチン染色陰性をセルトリ細胞腫 sclerosing type の特色と位置付けているが、その後 Samaratunga ら⁶⁾はサイトケラチン陽性例も報告しており、サイトケラチン染色がセルトリ細胞 Sclerosing type の診断根拠とはならないようである。セルトリ細胞腫は Richie¹⁾によると約10%が、湯浅ら²⁾の報告では56% (18例中10例) が悪性であると報告されている。しかし、Anderson⁵⁾によれば、Sclerosing type のセルトリ細胞腫は malignant potential を認めないとしている。ただし、この報告での症例数は11例と少なく、一般的にセルトリ細胞腫は、組織像から良悪性を判断するのが難しく、転移の有無によってこれを判断するため⁷⁾、本症例においても今後の厳重な経過観察が必要と考えられる。

結 語

セルトリ細胞腫の1例を文献的考察を加えて報告した。本症例は本邦では19例目のセルトリ細胞腫である。

本論文の要旨は第538回日本泌尿器科学会東京地方会において発表した。

文 献

- 1) Richie JP: Neoplasms of the testis. In: Campbell's Urology. Edited by Walsh PC, Retik

- AB, Vaugham Jr ED, et al. 7th ed., pp 2440-2441, W.B. Saunders Company, Philadelphia, 1998
- 2) 湯浅譲治, 長山忠雄, 鈴木啓悦, ほか: セルトリ細胞腫の1例. 泌尿紀要 **45**: 501-504, 1999
 - 3) 古国征国, 加藤弘之: 性索/間質腫瘍, 取扱い規約に沿った腫瘍鑑別診断アトラス, 辜丸, 藍沢茂雄, 森永正三編, 第1版, pp 75-81, 文光堂, 東京, 1992
 - 4) Zukerberg LR, Young RH and Scully RE: Sclerosing Sertoli cell tumor of the testis: a report of 10 cases. Am J Surg Pathol **15**: 829-834, 1991
 - 5) Anderson GA: Sclerosing sertoli cell tumor of the testis: a distinct histological subtype. J Urol **154**: 1756-1758, 1995
 - 6) Samaratunga H, Spork MR and Cooritz D: Sclerosing sertoli cell tumor of the testis. J Urol Pathol **12**: 39-50, 2000
 - 7) 福森知治, 西川宏志, 山本晶弘, ほか: 精巢性索/間質腫瘍の1例. 泌尿紀要 **41**: 687-691, 1995
- (Received on May 29, 2000)
(Accepted on October 10, 2000)